

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果について

平成29年4月18日に全国の小学校6年生、中学校3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果が出されました。実施された「国語」「算数」の二教科についての本校の傾向や課題についてお知らせいたします。今後の学習、指導に生かしていきたいと思っております。

調査の主旨

国語・算数は「A問題」「B問題」に分かれて出題されています。

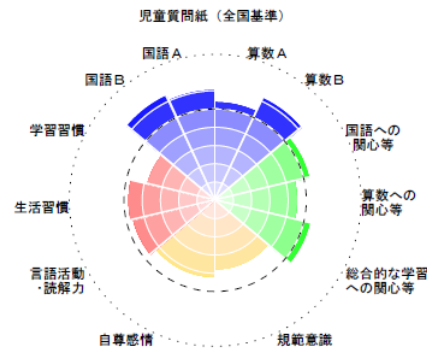
「A問題」：基礎的・基本的な知識・技能が身についているかどうかをみる問題

「B問題」：基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかをみる問題

本校の調査結果

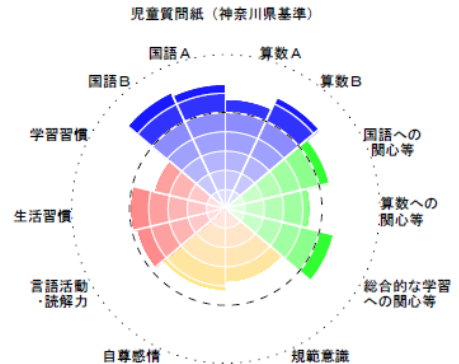
国語(A問題:15問 B問題:9問)

	国語 A 問題 主として知識		国語 B 問題 主として活用	
	平均正答数 (問)	平均正答率 (%)	平均正答数 (問)	平均正答率 (%)
本校	12.2	81	6.1	68
神奈川県	11.0	73	5.2	57
全国	11.2	74.8	5.2	57.5



算数(A問題:15問 B問題:11問)

	算数 A 問題 主として知識		算数 B 問題 主として活用	
	平均正答数 (問)	平均正答率 (%)	平均正答数 (問)	平均正答率 (%)
本校	12.2	81	6.0	55
神奈川県	11.6	77	5.1	46
全国	11.8	78.6	5.1	45.9



調査結果分析と課題

本年度の6年生児童の調査結果としては、本校全体では、国語 AB、算数 AB 共に全国平均、神奈川県平均を上回る正答率でした。ただ細かな結果を見ていくと、個人の理解度の差が大きく、学力差が見られました。質問紙の学習意識等の結果としては、学習習慣、自尊感情、規範意識等の項目で平均を下回っていました。ゲームやインターネットの利用時間等の約束が家庭できちんと決められていたり、学習時間は長く設定されたりするのですが、授業の予習や復習は十分にされていなかったり、約束を守れなかったりすることがあるようです。

課題に対する改善の手立て

学習面において、平均よりも正答率は高かったのですが、学力差があり、国語の書くの項目に苦手が見られる児童が多く、算数においては、数と計算の項目の復習を行っていきます。発表に自信がない児童、意見をもつこと自体に苦手がある児童もいるので、学習場面の中で話し合いの機会を生かしていきたいと思っております。また、規範意識の低さも見られたので、日常の指導、道徳教育等で指導を重ねていくようにしたいと思います。